



女優
はら
まいこ
Hara Maiko

映画出演でチャンスつかむ 着実に成長の足跡を刻む26歳

被爆体験を生涯にわたって語り続けた故沼田鈴子さんをモデルにした映画「アオギリにたくして」で女優デビューしたはらまいこさん。念願のふるさとでの上映も決まり、喜びで心をいっぱいにしている。

「多くの方に支えられて今の私があります。本当に感謝しています。映画では、戦争の悲惨さだけでなく、家族の絆の大切さについても深く考えさせられました。沼田さんがまた『希望の種』を阿南にも届けたくて。若い人にもぜひ見てほしい作品です」と話している。

Profile

はらまいこ (26歳・福井町出身・東京都在住)

女優。本名、原麻衣子。1988年1月30日生まれ。福井中学校卒業後、新野高等学校を経て、東京アニメーションカレッジ専門学校に進学。平成20年にプロダクション東京ドラマハウスに11期生として入所。平成21年に劇団「ワンダース」に所属。映画「バルトの楽園」、「カスタードプリン」、「モンゴル野球青春記」、「アオギリにたくして」に出演。趣味は、おいしいものを食べる、人とのお会いを楽しむこと。憧れは女優の小林聡美さん。

はらさんが演じたのは、主人公の妹役。被爆で片足を失い、婚約者までも戦争に奪われた姉を気遣う妹の心情をリアルに表現している。知人がプロデューサーを務めていた縁でチャンスをつかんだ。

「初演といえどもそこはプロの世界。一切の妥協はありません。張りつめた現場の空気と名俳優のオーラに圧倒され、もうアップアップでした」

幼いころから大のアニメ好き。テレビアニメを見ては、自分を登場させて物語を作った。芸能の仕事に興味を抱いたのは10歳の頃。当時の人

気アニメ映画「千と千尋の神隠し」に出てくる「千尋」に大きな衝撃を受け、「役者や声優になつてあんな世界を冒険してみたい」と淡い夢を抱いた。でも、引つ込み思案で目立つことが苦手な性格。そんな彼女の背中を押したのが、中学2年の時に体験した人権劇だった。台本に「ちひろ」という役名を見つけ、衝動的に手を挙げた。

「スポットライトのぬくもりに、底知れぬ心地よさを感じたのを今でも覚えています」

巡りあわせの妙に触れたはらさんは、高校を卒業し、東京アニメーションカレッジ専門学校に進学。アルバイトをしながら養成所や劇団で芝居を続けた。

「卒業すれば、何かの仕事はあるだろうな」

しかし、現実はそう甘くなかった。仕事の依頼がないまま1年が過ぎたころ、体調を崩し徳島に戻った。22歳の時だった。

「上京した時も社会に出た時も、どこかフワフワした気持ちがあつて、少し怖くて。めざしたいのが役者なのか声優なのかすら定まっていなかった気がします」

悶々とした日々が続くなか、アルバイトで野球のウグイス嬢に携わった縁で、映画「モンゴル野球青春記」に特別出演することになった。『はらまいこ』の名がエンドロールで流

れる。

「もう一度芝居がしたい」と強く思った彼女は、再び東京に戻った。

「縁に助けられて今の自分があります。これからは自分の力でチャンスをつかみたい。もうフワフワした気持ちじゃない。心配をかけた家族や親戚の方に成長した自分の姿を見せたい」

今、生活のすべてを芝居に捧げているはらさん。その生きざまは、チャンスをつかめずもがき続けた葛藤の日々から生まれた。

「息の長い女優をめざしたい。きれいでスタイルがよくて華のあるタイプではないので、おばあちゃん役がいいかな。主役は向いていない。話が来たらやるけどね(笑)」

女優として着実に成長の足跡を刻む26歳。今後の活躍が楽しみだ。



3月30日(日)

文化会館夢ホール

- ① 10:30 ~ 12:30
- ② 14:00 ~ 16:00
- ③ 18:00 ~ 20:00

前売り券発売中

一般・大学生1,000円
小中高校生 800円
文化会館、市民会館、情報文化センター、平惣(阿南店)、アピカなど
※当日券 1,300円

※託児あり(無料)
要予約 3月20日まで

問い合わせは
上映実行委員会事務局
阿部 和恵
(☎090-9559-8650)